

高齢者の肺炎球菌予防接種について

～ 予防接種を受ける前に必ず読んでおきましょう ～

1 肺炎球菌感染症について

肺炎球菌感染症とは、肺炎球菌という細菌によって引き起こされる病気で、成人の肺炎の20%～40%を占めています。この菌は、主に気道の分泌物に含まれ、唾液などを通じて飛沫感染します。日本人の約3～5%の高齢者では鼻や喉の奥に菌が常在しているとされます。これらの菌が何らかのきっかけで進展することで、気管支炎、肺炎、敗血症などの重い合併症を起こすことがあります。

2 予防接種の効果と副反応

肺炎球菌には93種類の血清型があり、予防接種で使用される「23価肺炎球菌莢膜ポリサッカライドワクチン」は、そのうちの23種類の血清型に効果があります。この23種類の血清型は、成人の重症の肺炎球菌感染症の原因の約7割を占めます。

接種後の副反応として、接種を受けた部分が痛む、熱感がある、腫れる、赤くなるなどの症状が5%以上の人で認められています。また、筋肉痛、倦怠感、違和感、悪寒、頭痛、発熱もありますが、いずれも軽度で2～3日で治ります。

3 予防接種を受けることができない人

- ① 明らかに発熱（37.5℃以上）をしている人
- ② 重篤な急性疾患にかかっている人
- ③ その他、医師が不適切な状態と判断した場合

4 予防接種を受けるに際し、医師とよく相談しなくてはならない人

次に該当すると思われる人は、接種の前に必ずかかりつけの医師に相談してください。

- ① 心臓病、腎臓病、肝臓病、血液の病気などで治療を受けている人
- ② 過去にけいれん（ひきつけ）を起こしたことがある人
- ③ 過去に免疫不全の診断がされている人

5 予防接種を受けた後の注意

- ① 接種を受けたあと30分間程度は、急な副反応が起こることがありますので、健康の変化に注意しましょう。
- ② 接種部位は清潔に保ちましょう。入浴は差し支えありませんが、接種した部位をこすることはやめましょう。
- ③ 接種当日は、激しい運動や大量の飲酒は避けましょう。
- ④ 接種後、接種部位の異常な反応や体調の変化があった場合は、速やかに医師の診察を受けましょう。

6 予防接種による健康被害救済制度について

定期的な予防接種によって引き起こされた副反応により、医療機関での治療が必要になったり、生活に支障がでるような障害を残すなどの健康被害が生じた場合には、予防接種法に基づく補償を受けることができます。

ただし、その健康被害が予防接種によって引き起こされたものか、別の要因によるものかの因果関係を国の審査会にて審議し、予防接種によるものと認定された場合に補償を受けることができます。